医療機関特化型温室効果ガス算定 CIC ツール対面実践研修を初開催

2026 年 11 月 22 日（日）・23 日（月・祝）の 2 日間、あそか病院　南館 1 階リハビリテーション室を会場として、「気候影響チェックアップ（CIC）ツール対面トレーニング」が開催されます。

本研修は、世界の温室効果ガス排出量の約 5%を占めるとされる医療業界の脱炭素化を目指す、国内初の大規模な実践プログラムです。

全国から 28 の基幹病院（うち伯鳳会グループ 11 病院）、約 40 名の実務責任者が集結し、医療現場における環境負荷を減らすための具体的な計画づくりを学びます。

はくほう会加古川病院はこれからも、地域医療の拠点として人々の健康を守ると同時に、地球環境に配慮した持続可能な病院運営に貢献してまいります。

伯鳳会グループが実践する、サステナブルな医療技術活用についてご紹介いただきました

11 月 6 日（金）、シーメンス社のグローバル Web サイト「Perspectives」にて、伯鳳会グループのサステナビリティ（循環型医療）に関する取り組みが紹介されました。

■ 掲載記事

How Hakuhokai Group is advancing circular medtech in Japan

（伯鳳会グループが実践する、サステナブルな医療技術活用）

■ 記事の概要

古城理事長のコメントを交え、当グループの以下のような取り組みが世界に向けて発信されています。

・再生医療機器（血管撮影装置など）の積極的な導入による環境負荷の低減
・既存機器（MRI など）のソフトウェアアップグレードを通じた資源の有効活用と省エネ化（大阪暁明館病院のデータ等）
・大規模太陽光発電など再生可能エネルギーの活用による地域社会の環境保護

※記事は英語で公開されていますが、ブラウザの翻訳機能等を利用して日本語でもお読みいただけます。

伯鳳会グループの先進的な取り組みがグローバルに評価・発信されましたので、ぜひご一読くださいませ。